

テレビの地震災害報道

～地震発生直後からの応急対応期～

2007年02月06日

大規模災害発生時における
情報提供のあり方に関する懇談会

日本テレビ報道局

谷原和憲

なぜテレビで災害報道なのか？

- 速報メディアだから
被災地の「**生命を守る**」ための情報発信
- 多くの人を使うメディアだから
被災地の「**生活を守る**」ための情報発信
- 災害大国ニッポンだから
災害の「**教訓の共有化**」が次の防災へ

「首都圏で震度6弱」 その時・・・

- ただちに、地震特番突入
 - ～ 通常放送は打ち切り、ノーCM
- 直後に入る情報は、震度だけ
 - ～ 最初10分は「震度 + 呼びかけコメント」
- 直後の生映像は、情報カメラ（お天気カメラ）
 - ～ 映像で「いま」を伝えるテレビの力

震災時の初期報道 ~ 「生命を守る」

- 被害(の全体像)を伝える(伝えたい)
 - ~ 「点」を集める映像取材
 - 「点から点へ」 最大の武器はへり中継
- 被害情報にあわせた「注意喚起コメント」
- 継続・拡大被害の懸念 …… 火災延焼報道
 - ~ 定期的なへり取材で「変化」を伝える

生命を守る！ さらに進めるには・・・

- 政府の「被害予測システム」情報
 - ～ 人的被害・全壊家屋の推定総数
火災延焼シミュレーション etc

誤差はあるが・・・ 「桁」でも知りたい！

- 全ての「点」情報を「1枚の地図」に落とす作業

震災時の初期報道 ～ 「生活を守る」

- 「ダメになった」情報しか入ってこない
代替手段を伝える“事前準備VTR”
- 「活着ている」は最大限尊重すべき情報
～ 阪神の教訓 「開いている病院」情報
- 「自分のために知りたい」というニーズ
～ テレビで前で「自分の順番」を待てない！

生活を守る・・・「事前準備VTR」の例

- 自宅倒壊、避難所に行くしかない
VTR「避難時の持ち出し品」
- 電話がかからない
VTR「171 & 携帯伝言板の使い方」
- 病院に行ったら長蛇の列で待たされる・・・
VTR「トリアージとは」

テレビの災害報道 手法のメッセージ

- 速報スーパー

スピード勝負、でも限られた情報量

- 特番編成

「いつもと違う」という、危機感の表現

- 地上デジタル・データ放送

「生活を守る」情報は「好きなものから」

生活を守る！ さらに進めるには・・・

- 分野別に網羅した「**情報システム**」の構築
 - ～ 交通、水道、病院、ガス etc
 - ～ 企業・自治体の枠を超えた情報収集力
- 生活密着の“**零細情報**”を、どう集めるか
 - ～ 営業しているスーパー、浴場 etc
 - ～ 地域別のボランティアの情報収集力